10
October 2015
No.713

熊歯会報

Kumamoto Dental Association

熊本県歯科医師会

CONTENTS

- 巻頭言（副会長　宮坂 圭太）…… 3
- 理事会報告 …… 4
- 各郡市新執行部紹介…… 6
  （宇土、山鹿、菊池、上益城、水俣・芦北、人吉、球磨、天草、下益城）
- 委員会報告 …… 11
  （センター・介護、地域保健、学術、学校歯科）
- 航跡…… 16
- 報告　警察歯科医会全国大会…… 21
- 報告　肥後っこスマイルサマーキャンプ…… 22
- 報告　県・阿蘇地域総合防災訓練…… 23
- 郡市会報告 …… 24
  （荒尾市、球磨郡）
- 訃報…… 25
- 会務報告…… 25

― 歯科医師の倫理綱領 ―

われわれ歯科医師は、日頃より歯科医学および歯科医療の研鑽を通じて培った知識や技術をもって、人々の健康の回復と疾病の予防のために貢献するものである。

一、専門職として歯科医学と歯科医療の発展のために尽くし、医療倫理の実践に務める。

一、専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める。

一、自己の知識、技術、経験を社会のために提供し、社会福祉および国民の健康向上のために努める。

公益社団法人 日本歯科医師会

表紙に寄せて

まだ薄暗い早朝より、理事と共に藤崎宮秋季例大祭に出向きました。

動く被写体を狙うのはカメラ初心者には難しく、藤崎宮から日銀前まで勢子たちと共に歩くことに・・・・。

途中、同級生や知人の参加者とも会い、秋の気配を肌で感じる一日となりました。

（A.K.）

最近思う事

副会長 宮 坂 圭 太

地域医療構想と地域包括ケアシステム構築について

厚労省は2025年問題に関して、施設介護から在宅介護への舵取りを行い、看とりを含めた在宅介護の推進に取り組むことに決定した。そのため在宅介護に関わる医療・介護資源の充実に向け平成26年度から地域医療介護総合確保基金（国２／３・県１／３負担）を創設した。熊本県歯科医師会では医科歯科連携事業や訪問歯科診療機材の整備に基金からの補助をうけ、医療政策課と協議して遂行している。今後、国の向かう先から目が離せない。

口から食べる楽しみの支援の充実

介護保険報酬削減のなかで、口腔機能維持管理加算や経口維持加算の算定に歯科衛生士や歯科医師の関わりが大切になってきている。ミールラウンド（食事観察）にも積極的に参加していただきたい。食事介護の手間削減、ひいては在宅介護を推進するためには必要不可欠であり、歯科が関わることによって歯科衛生士さんの職域も広がることになる。

新オレンジプランと歯科

新オレンジプランにおける認知症対策において歯科医師の参画が明記された歯科と認知症については摂食嚥下に関わることや認知症患者の早期発見に関し、深く関わりがあることが分かってきている。認知症対策の先進県である本県はいち早く研修を進めることを決定している。

歯科医師需給問題について

2015年、歯科医師国家試験合格率は63.8%。2003名の合格者しか必要ないと国が考えているのでしょうか？35年前私の卒業時は国家試験合格率が95%を超えていたと認識している。国立大学歯学部の増設や新設歯科大もあった頃である。厚労省の人口数に対する歯科医数の目標値はとうに達成されている。歯科医師需給問題は永遠のテーマであるはずだが、利害関係もあってなかなか進んでこなかったことも一因であると考えられる。国の医療構想も含めきちんと日本歯科医師会としても対応を考えていかねばならない時期だ。

医療経営コンサルタントについて

医師優遇税制の存在、どんどん右肩上がりの保険点数改定の時代は終了した。経営から労務管理までに院長が心を砕く時代になってきているのはわかるが、医療は算術だけではないと私は考えている。迷える子羊から相談を受け利益を得るだけの医療コンサルタントの存在も目立つ。全てを任せるのではなくお互いの利益になる分のみで勝負したらいかがなものか。経営優先のコンサルタントが診療をダメにする。

最後に

雑感を述べてきたが、歯科医師国家試験も狭き門になっている。ケアマネージャー試験も私が受けた第一回目に比べれば合格率が下がってきた。最近思うに国の施策などは全てが政治主導であるように思えてきた。国や厚労省が考える「社会ビジョン」「医療構想」にいち早く反応できるように、いろんなところにアンテナを張って対応することで、次世代の歯科界の発展につながるような行動をと思っている。我々ももっと社会に出て行きましょう。

理事会報告

危機管理体制の更なる整備を

― 第４回理事会 ―

８月26日（水）午後７時より県歯会館第１会議室において、浦田会長他全役員、伊藤学院長出席のもと開催された。

１．開会：中嶋副会長
２．挨拶：浦田会長

昨日の台風はどうだったでしょうか。十数年ぶりに最悪のコースの熊本直撃ということで、私も改めて恐怖を感じるような台風でした。いま現在、会員の被害調査をしています。全ての状況を把握していませんが、若干看板が飛んだとか多岐にわたっているようですので、被害にあわれた先生にはこの場を借りてお見舞いを申し上げたいと思います。幸いにも、人命とか怪我、全壊とか大きな災害の報告は今のところありませんので、安心しましたが、改めて危機管理の重要性を感じました。先日、18日に教育庁との懇談を行いました。教育庁との信頼関係もより一層強まり、有意義な懇談会となりました。健康福祉部との懇談は昨日の台風で延期になりましたが、部長が代わられ新任でもあり、また日を改めて懇談会は開催したいと思います。昨年度から始まった国の財政支援制度については、今年度は非常に厳しい状態にあります。各県も対応に苦慮しておりますが、本県においては県庁担当者が我々の要望に応えるために奮闘していただいております。ただ100％ではありませんし、削減等が予想されます。苦しい現状は間違い有りませんが、歯科保健の重要性を常に行政と連携して進めていくことがいかに重要かという認識を新たにしておりますので、行政と話をしながら進めていきたいと思っています。また今日は補綴学会の開催依頼の件で九歯大の細川教授がお見えになりました。来年１月には歯周病学会が開催されます。平成28年９月にも補綴学会の九州支部と四国支部の合同学術講演会が開催予定です。28年度に向けて複数の学会を開催するということで担当の先生方にはご負担をおかけしますが、重要な学会ですのでご協力よろしくお願いいたします。冒頭に申し上げましたが、災害についてはいつ何が起こるかわかりませんけれども、迅速な対応できるような危機管理体制を整備しながら会務にあたっていきたいと思います。今後とも先生方のご協力をお願いしまして挨拶とさせていただきます。

３．議長選出：浦田会長
４．議事録署名人：久々山監事、西野監事
５．平成27年度会務報告：
（自：７月17日～至：８月23日）

本会総務：臨時代議員会、理事会、常務理事会、選挙管理委員会、裁定審議委員会、在宅歯科診療器材整備事業説明会
学　　術：デンツプライ三金共催学術講演会
社会保険：各郡市社会保険担当者会議、日歯社会保険委員会
地域保健：早産予防対策事業
広　　報：会報９月号の編集・校正
学校歯科：九州地区学校医会役員連絡協議会、県学校保健研究協議大会
医療対策：医療相談・苦情事例報告
センター・介護：在宅及び要介護者歯科に関する委託事業各郡市担当者会議
厚生・医療管理：各郡市健康診断
総務・医療連携：病診連携事業歯科衛生士協議会
学　　院：学院体験入学、学会発表報告
国保組合：臨時組合会
ＫＤＭＵ：相続セミナー打ち合わせ
以上、各担当役員より報告がなされた。

６．報告事項：
１．表彰
・平成27年度熊本県学校保健功労表彰
河端　憲司　会員（上益城郡）　他13名／７月22日（水）
・日本歯科医師会会長表彰
冨永　英俊　会員（玉名郡市）／表彰式　11月７日（木）全国歯科保健大会（山梨県）

2．退会会員
・故　澤田 宣彦 会員（八代）83歳
7月31日ご逝去
・故　大森 正哉 会員（下益城郡）100歳
8月14日ご逝去
3．関係機関・団体からの役員等の推薦依頼
・日歯広報「会員モニター」／日本歯科医師会　任期：平成27年7月1日～平成29年6月30日
岩崎 晃司 広報委員長（八代）
永廣 有伸 広報副委員長（玉名郡市）
八木 俊晃 広報委員（熊本市）
・全国健康保険協会熊本支部第1回健康づくり推進協議会／全国健康保険協会熊本支部　任期：平成27年7月1日～平成28年7月30日　赤尾　浩彦　理事
4．平成27年度日本体育協会公認スポーツデンティスト養成講習会の受講内定者
大川 智弘会員（熊本市）に内定。
5．地域医療介護総合確保基金のアンケート調査集計結果（日歯実施）
日歯が集計した全国の状況について報告がなされた。
6．「ヒト歯を用いた被ばく線量評価研究事業」経過
福島県歯科医師会より乳歯放射線量測定に関して、提供された乳歯の放射線量はレベル1だったとの報告があった。
7．第1回各郡市歯科医師会会長・専務理事連絡協議会
9月5日(土）午後2時より県歯会館で開催する。協議の「マイナンバー制度への対応」については、吉永会計士に約10分程度で説明をお願いする。
8．日本養護教諭教育学会第23回学術集会への協賛依頼
協賛依頼については、広告掲載で対応する。広告はA4版を掲載、原案は学校歯科委員会で起案する。
9．平成27年度第1回臨時代議員会会計報告の訂正と代議員への通知
会計報告の一部修正について、代議員へ修正通知文書を送付した。
10．熊本県体育協会免税募金
10万円を支援する。
11．会計7月末現況

7．連絡事項：

1．9月行事予定

8．承認事項：

1．新入会員の承認〔承認〕
牧潤一（熊本市／第2種）、中根研（熊本市／第1種）2名の入会を承認した。
2．名義後援使用依頼〔承認〕
・子育てすくすく☆こども博２０１５／ＴＫＵテレビ熊本
・第3回ドクターサーチくまもと健康セミナー／熊本朝日放送
・全国若年認知症フォーラムin熊本／全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会
・2015年スペシャルオリンピックス日本・熊本地区大会／スペシャルオリンピックス日本・熊本
3．共催依頼〔承認〕
・歯の健康ランド／熊本県若手会歯科医師新樹会

9．議題：

1．熊本県警察歯科医会会則の一部改正（案）〔承認〕
附則条文の語句を一部修正することとした。
2．選挙管理委員会規則と諸会議及び委員会規程の一部改正（案）〔承認〕
選挙管理委員会規則及び諸会議及び委員会規程は現条文では選任された委員の任期と整合性が成立しないので任期を選任された年の7月1日とするという表現に修正することとした。
3．第21回中規模県歯科医師会連合会協議題の回答〔承認〕
作成した回答原案について承認した。なお、修正等があれば渡辺専務理事もしくは事務局に連絡することとする。
4．「中国・四国」「九州」地区歯科医師会役員連絡協議会の協議題の回答
協議題があれば、次回常務理事会までに渡辺専務理事もしくは事務局に連絡する。
5．保存期間を経過した帳簿の廃棄〔承認〕
会計規則第5条に基づき、廃棄することとした。
6．その他
○障害者施設からの講師依頼と健診〔承認〕
講師依頼及び健診依頼については、センター・介護委員会で対応することとした。

10．協議事項：

11．監事講評：

12．閉会：小島副会長

（広報　竹下　憲治）

各郡市新執行部紹介

宇土郡市歯科医師会（会長 田中 栄一）

①年間行事・事業
　宇城三郡市学術講演会
　歯と口の健康週間事業
　健康診断
　会員旅行
　宇土郡市講演会の開催

②現在計画中の事業
　郡市医師会、薬剤師会、訪問介護と共に情報共有システムの構築を計画中。在宅医療情報広場（仮称）を設置し、関係者が情報を共有するデータベースを構築する予定。

③会の特徴
　会員が少ないので全員がいずれかの役職を持ち、仲良く和気藹々とした郡市会である。また今年から郡市すべての幼稚園、小学校、中学校でフッ化物洗口が行われている。

④　その他
　すべての会員が患者の口腔内の健康増進に努め、患者のことを第１に考え診療できるように研鑽する。また在宅医療において多職種間の相互理解や情報の共有を十分に行いたい。

（田中　栄一）

山鹿市歯科医師会（会長 神山 久志）

①年間行事・事業
　歯と口の健康週間事業
　歯っぴー便りの年１回発行
　フッ化物洗口事業への対応
　社保研修会の開催
　AEDの管理
　従業員永年勤続者表彰
　釣り大会、会員親睦のレクリエーション
　入会希望者への対応
　県歯、行政、関係格団体との連携
　山鹿、植木地区三師会への参加
　城北地区役員連絡協議会への参加及び対応
　山鹿市民医療センターとの医療連携及び勉強会

②現在計画中の事業
　在宅診療に関して他業種（介護士、ケアマネージャー等）との定期的な会議
　入会金に関して（検討委員会を立ち上げ協議予定）
　魅力的な月例会の開催

③会の特徴
　毎月の例会、理事会、常務会の開催
　毎年の忘年会、新年会の開催
　移動例会、暑気払いの開催

（小林　聡）

菊池市歯科医師会（会長 宮川 俊弥）

①年間行事・事業

定時・通常総会の運営（一般社団法人として）
各種研修会（学術・社保・救急医療等）
三師会旅行（鹿児島）・学術講演会
日曜当番診療の実施
企業健診の実施
「歯とお口の健康展」の主催
スタッフ懇親会・ボウリング大会
城北地区連絡協議会の主幹
県歯・保健所・市町と連携した歯科保健活動

②現在計画中の事業

歯科医師会館の補修：築年数も経過し、後の世代に残すためにも補修を要す。会員の財産を有効に生かしたい。

負担金を含め、規約の見直し：一般法人の設立に際し、規約等の見直しを行ったが、さらに現実に即した形に補正を行う。

在宅診療の充実：学校におけるフッ化物洗口の実施が実現したので、地域歯科のターゲットを在宅医療・ケアに移行させたい。

③会の特徴

特色の一つは会員数の増加である。正会員に準会員・特別会員を加えると70名の大所帯である。さらに地域内には10件を超す非会員診療所も存在する。若い会員には、組織としての動きを理解して頂くために、委員会に参加して頂き、継続した会の運営が出来るようにしている。

特色のもう一点は、医師会・薬剤師会との連携の強さである。三師会として学術講演会、旅行、ゴルフコンペ、ビアパーティーと活動を共にしている。各会の講演会に呼ばれる事もある。こういった事が妊婦・糖尿病などの歯周病との連携に有効に働いてゆくと思う。

（宮川　俊弥）

上益城郡歯科医師会（会長 玉置 孝信）

①年間行事・事業

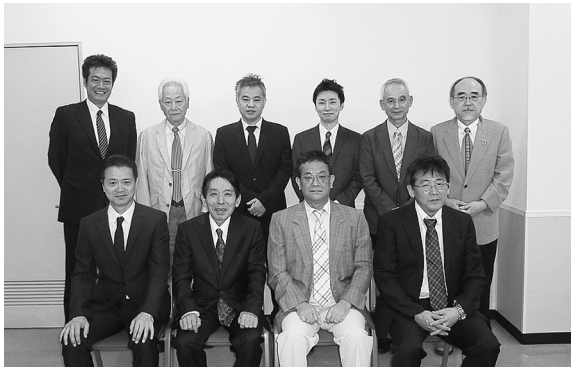
三師会研修会
笑顔ヘルＣキャンペーン
宇城三郡市合同学術講演会
家族・従業員レクレーション
歯と口の健康週間
通常総会
臨時総会
理事会・常務会

②現在計画中の事業

医師会、コ・メディカルと連携しての在宅ケアシステムの確立
笑顔ヘルＣキャンペーンのさらなる充実

③会の特徴

会員相互の団結力、結束力の堅さ。



④その他

若手の会員が各委員会などの責任ある立場に立つことにより、郡の中核として、これからの時代のニーズに合った当郡独自の活力ある会を目指している。

（宮本　徳郎）

水俣･芦北郡市歯科医師会（会長 藤崎 圭一）

①年間行事、事業

総務：
・例会・年５～６回開催
・未入会員対策

学術：
・例会時のビデオ研修
・学術講演会
・郡市歯科医師会・年２回（１回はスタッフ合同）
・医師会との合同研修会・年１回
・日常歯科臨床懇話会・「伊佐、出水、薩摩、水俣芦北」４地区合同学術講演会
・病診連携研修会・水俣総合医療センター懇話会

厚生：
・会員、関係者健康診断（８月）
・新年会の開催（１月、家族参加）
・会員の研修旅行・各診療所福利厚生事業
・医療安全管理義務（院内感染・医療機器、医薬品の安全管理）

公衆衛生：
・各市町村のイベントへの参加
・歯と口の健康週間（各医院での無料歯科健診）
・高齢者のよい歯のコンクール
・フッ化物洗口推進

社会保険：
・例会時の社保研修会及び質疑応答

②現在計画中の事業

医師会との合同研修会、懇親会での病診連携の強化。

水俣総合医療センターを軸に、水俣・芦北に隣接する鹿児島県の歯科医師会との合同学術講演会、懇親会で親睦を深め情報交換。

乳幼児期から老年期に至るまでライフステージに併せたアプローチのできる歯科医師会

③会の特徴

会員数は少ないがその分フットワークの軽い対応力のある歯科医師会。

④その他

水俣・芦北地区で始まる小中学校フッ化物洗口での対応について、会員数が少ないため役割分担が困難なこと。

（伊藤 延隆）

人吉市歯科医師会（会長 與田 桂三）

（歯ッピーねっと）

①年間行事・事業

⑴　市内及び相良村小中学校歯科検診
⑵　歯とお口の健康事業（市内ショッピングセンターにて歯の無料検診、歯の相談実施）
⑶　人吉球磨臨床研修会実施
⑷　人歯会報発刊
⑸　就学時歯科検診
⑹　お口の健康教室（介護予防事業）
⑺　新年会
⑻　総会
⑼　人吉・球磨地域歯科保健推進連絡会

②現在計画中の事業

⑴ 糖尿病と歯周疾患／早産（低体重児出産）の予防事業

⑵　訪問介護・口腔ケア、訪問歯科診療の推進
⑶　がん治療の周術期口腔機能管理の医科連携及び薬科連携の推進
⑷　在宅医療での多職種連携

③会の特徴

会員30名よりなる会である。創立は昭和22年10月19日。

現在、会のある人吉市は人口が約34,000人。県の南部にあり何年か後には人口３万人を切る地域で、高齢化率32.1%の高齢化社会のなかで日々診療に取り組んでいる。会への委託事業の増えていく中、会員一同助け合って会の運営を行っていく所存である。また、隣接した球磨郡歯科医師会との連携も更に大切になっていくものと思われる。あとは実績を作っていくだけである。

（御手洗　肇）

球磨郡歯科医師会（会長 塚本 卓也）

①年間行事・事業

②現在計画中の事業

通常総会は、毎年４月の下旬に開かれ、重要事項の議決や会則の変更・会計の決算報告などがあり、そのあと懇親となる。

学術関連では、学術講演会が８月８日午後３時より錦町のパルティール福寿庵にて九州歯科大学の病院長、柿木保明先生をお招きして『日常の歯科臨床に応用できる舌診と漢方薬』と題して、会員とそのスタッフのみならず幅広い医療関係者の参加者と供に開催された。

人吉球磨歯科臨床研修会は、今年の９月と翌年の２月、６月に人吉医療センターにて開催予定。詳しくは未定である。

その他日時未定であるが、くま歯キャラバン隊を予定している。

地域歯科

５月21日　人吉球磨地域歯科保健推進連絡会第１回幹事会
５月26日　糖尿病予防フォーラム実行委員会議
６月４日～10日　歯と口の健康週間
８月４日　糖尿病予防フォーラム実行委員会議
10月　人吉球磨地域歯科保健推進連絡会第２回幹事会
11月８日　いい歯の日無料歯科健診、相談
11月　糖尿病フォーラム

理事会と例会は、およそ２か月に１回、それぞれあさぎり町にある公共施設にて会議が行われている。

新年会は、地元の国会議員や県会議員の方も招待して、毎年１月の末に行われる。

慰安旅行は、２年に１度、会員有志で計画。今年は行わない。

休日当番医は、年に２回、１月と５月の休診日が続く期間に、緊急の歯科患者受け入れとして会員が順番に担当して、担当歯科医院の名前と供に地元新聞紙に載せてもらうようにしている。

③会の特徴

会員数が減少のため、会員間の連携が密であり、和気藹々とした雰囲気の会である。

④　その他

過疎地区の特徴で、会員の半数が還暦を迎えている状態である。

若手の歯科医師の入会を期待している。

（久保　隆）

天草郡市歯科医師会（会長 山本 源治）

①年間行事・事業

4／26(日) 三師会ゴルフ＆親睦会
6／13(土) 天草市健康フェスタ2015
6／13(土) 長寿会（喜寿２名,還暦４名）
8／29(土) 三師会合同研修会
（内容：疼痛について
歯科演者　篠原熊大名誉教授）
10／３(土) 第56回歯牙供養祭
第51回天歯学会
講師：中山熊本大学教授
H27／８月～H28／２月
糖尿病・歯周病医療連携モデル事業
毎月１回の会員発表、外来講師による研修
（５／12(火)：糖尿病について
栖本病院　水流添院長
地域医療センター　平島医師）

②現在計画中の事業

老人保健施設無料健診予定
口腔ケア講習会、認知症講習会
歯科衛生士セミナー

③会の特徴

昨年度より大矢野地区の会員も天草郡市に入会して頂き会員数も56名となったが、毎月１度の研修会には若手の会員を中心に集まって交流を深めている。また、会員の高齢化で60歳以上の会員が25名（44%）となったが元気な会員が多く、会の運営のためにもまだまだ頑張って頂きたいと思っている。

④その他

今年度は天草郡市で特に糖尿病・歯周病医療連携モデル事業（H27／８月～H28／２月）に力を入れており、H27年７月16日には医師会、薬剤師会と連携合意書を結び取り組んでいる。

（布井 隆行）

下益城郡歯科医師会（会長 吉永　修）

①年間行事・事業

・定時総会
・宇城三郡市学術講演会
・宇城健康フェスタ
・お口の健康展
・会員健康診断

②現在計画中の事業

・中学校におけるフッ素洗口事業開始に向けての説明会
・訪問歯科への取り組みに対する更なる協力
・三郡市学術講演への取り組み

③会の特徴

今回の執行部は、前回に引き続き同じメンバーで望むことになった。

日頃の診療に加え、会員数が少ないこともあり、殆どの会員が役に就いており、年間に数回程度の総会と親睦会を図るにもかかわらず、まとまりのある会である。

（田染 直子）

委員会報告

各地域で多職種連携の構築すすむ

― 在宅及び要介護者歯科各郡市担当者会議 ―

センター・介護

2015年問題を見据えた歯科医療へ

８月22日（土）午後３時より県歯会館にて県歯役員、各郡市担当者及び衛生士会代表が会し標記会議が開催された。

冒頭挨拶の中で浦田会長は2025年問題に触れ、迫り来る高齢社会を見据えた歯科医療への転換・対応が急務であると述べた。

田上常務理事を議長に選出し、まず松本理事より前年度事業報告に続き、今年度事業計画の骨子及び進捗状況が報告された。

熊本県の３か年委託事業の最終年となり、概ね前年度を踏襲した事業が予定され、主に訪問歯科診療に携わる地域リーダー養成を目的とした学術講演会・研修会を開催していく事などが示された。また、既受講者を対象にした内視鏡のアドバンス講習会が新しく盛り込まれた。

事業報告に次ぎ質疑応答では、阿蘇郡市の甲斐田副会長、荒尾市田中委員から、今後急増する認知症患者の歯科側からのアプローチに関し発言があり会場の関心を集めた。また、各郡市の担当者より、各職種連携の進捗状況が報告され、各地域ごとに在宅診療に対する意識に差がある事も明らかになった。

在宅・介護において、歯科は咬合崩壊の防止や経口摂取の維持という重要な役割を担っている。また、経口摂取が不可能になった場合でも、口の中を極力清潔に保つことは人としての尊厳を保つものである。終末の場面における看取りの医療としての歯科の役割も大切であり、これらのことを会員一人ひとりに周知していく必要性を感じた。

総評の中で小島副会長は、近隣の医療関係者との親睦・交流が糸口となり歯科医師に求められる課題やニーズが鮮明になる事も少なくないと、連携構築へのヒントを示した。

最後に田上常務理事より、各郡市における多職種連携の進捗状況を調査したいと発言があり、これを了承し閉会となった。

（センター・介護　規工川 浩）

委員会報告

有意義な事業結果を導くには

― 各郡市地域保健担当者会 ―

地域保健

8月29日（土）午後3時より県歯会館2階会議室において各郡市地域保健担当者会が開催された。

田上常務理事から開会の挨拶があり会が始まった。

報告

⑴　後期高齢歯科健診事業

県後期高齢者医療広域連合事務局の竹田参事より次年度より始まる後期高齢歯科健診についての説明があった。

⑵　歯と口の健康週間事業

各郡市の開催報告があった。

⑶　平成26年度、27年度の各郡市事業報告

各郡市より歯周疾患健診、妊婦歯科健診などの実施有無の報告があった。

⑷　糖尿病・歯周病医療連携事業

小田委員より糖尿病・歯周病医療連携モデル事業（天草地区）の具体的な流れ、糖尿病・歯周病医療連携報告書の記入の仕方などの報告があった。

⑸　熊本型早産予防対策事業

赤尾理事より歯周病セルフチェック表、ＷＨＯプローブを用いたＣＰＩ評価などの説明があった。

⑹　協会けんぽ「スモールチェンジ」生活歯援事業

各郡市担当者間の活発な意見交換が行われた

二宮委員長より『職場でスモールチェンジ～みんなの「健康力」こそ、会社のちから!!～』と題し事業主旨、内容と現状報告の説明があった。

⑺　ＣＰＩの測定法の周知

赤尾理事より新しくなったＣＰＩの判定基準の報告があった。

協議

⑴　糖尿病・歯周病医療連携事業

次年度のモデル事業をどの地区で行うか協議した結果、本年度に引き続き天草地区で検討していくことになった。

⑵　後期高齢歯科健診事業

次年度より本事業は始まることは決定しており、時間的余裕がない。会員に本事業をより理解していただくために来年早々からくま歯キャラバン隊にて各地区で説明会が行われることが決定した。

最後に宮坂副会長・渡辺専務理事より地域医療構想について追加説明があり閉会となった。

地域保健関連の事業は他機関との連携が必須であり、結果が早期にでないが、各郡市担当者間の活発な意見交換を交えながら推進することで有意義な事業結果を導くものと思われる。

（地域保健　藏本 茂禎）

委員会報告

実践的歯内療法

― 特にNiTiファイルテクニックを中心に ―

学術

8月23日（日）午前10時より県歯会館4階大ホールにて上記をテーマに、福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野　泉利雄准教授を講師に迎え、学術講演会が開催された。

牛島常務理事の開会の挨拶に始まった午前の部では、まず根管処置について、①髄室開拡　②根管長の決定　③根管の拡大形成　④根管の洗浄（貼薬）⑤根管充填の各項目の説明があり、①の髄室開拡では、ガイドとなる窩洞を掘り下げ髄角から穿するような術式が髄床底を傷つけにくく、殊に大臼歯においては近心壁に外開きを付与し場合によっては、近心咬頭を削除した方が作業しやすい。残根状の歯牙について、仮封等の便宜を考慮すると、流れにくいフロアブルレジン（ビューティフィルフロープラスF00）を使用し隔壁を作成する。②の根管長測定については、電気的根管長測定器の性質について、表示上の0.5が、必ずしも生理学的根尖孔を示していないことに注意をしなければならないと述べられた。③の根管形成では、歯内治療の根管形成、洗浄・貼薬、根管充填の3過程でもっとも重要なのが根管形成であり、理想的な根管の形成形状として　1．連続的・適度なテーパーを持つ　2．解剖学的な根管形態を維持している　3．根尖孔の位置の変移がない　4．根尖孔付近の形成が最小限　5．根尖孔が開いている（Shilder　1974年）以上5条件を満たすものが望まれる。④の根管洗浄、貼薬では、次亜塩素酸ナトリウムを使用し、基本的に根管拡大中は根管内に満たしておいた方がよい。また、過酸化水素との交互洗浄については、ほぼ無意味であるが、次亜塩素酸ナトリウムの中和ということでは意義があると述べられた。EDTAはスメアー層の除去に有効であり、洗浄時に超音波の振動を加味することで効果が高められる。貼薬について、いかなる薬剤を用いたとしても、根管貼薬のみで無菌化を行うことは不可能であると述べられた。⑤の根管充填では、ラテラル、バーチカルさまざまな方法があるが、症例に応じて使い分けるべきで、サーマフィル、MTAを用いたケースを紹介された。

根管処理について興味深い講演であった

続いて、根管治療後のしつこい痛みの原因について述べられ、①根尖孔外への不用意な刺激として根尖の過剰拡大、汚染物質の押し出し、消毒薬の刺激が挙げられ、持続すれば根尖周囲組織の疼痛閾値の低下が起こり→中枢への疼痛入力の増加→中枢の過敏化→通常では反応し得ない弱い刺激に痛みを感じ長期にわたって持続する。根尖部破壊症例について水酸化カルシウム製剤（カルビタール）あるいはMTAの使用が有効であると述べられ

た。②根尖部の細菌感染について、根尖孔外にバイオフィルムが形成されると難治化するため、根管処置中は無菌的な処置を心がけるべきで、根尖部を無菌化する方法として、フッ化ジアミン銀+イオン導入法、Nd:YAGレーザー照射法について述べられた。

午後の講演は、形状記憶合金でかつ超弾性の性質を持つNiTi fileの説明から始まった。形状によりPassive instrument とActive instrumentに分類され第一世代から第五世代へファイルの形状、材質により変遷する。本講演はデンツプライ三金との共催講演であり、WaveOneGOLD,ProTaperNEXTについて説明があり、前者はM-wireという新しいNiTi合金を使用し、ファイルの動きが従来のrotaryではなくreciprocatingであり、ほぼ一本で根管形成が可能で、よく曲がり強靭な性質を持ち切削性が良いが、湾曲根管においては根管の直線化に伴う作業長の減少により根尖部を破壊しないよう注意が必要であると述べられた。後者は同様にM-wireを使用しそのファイル断面形態により、根管内で波打つような動きをして効果的に切削片を歯冠側に引き上げることが特徴である。NiTiファイルの使用に関しては、症例に応じて、数種の組み合わせやハンドファイルとの併用を考えるが、Glide pathの形成が重要であると述べられた。続いてMTAについて、本材は水硬性であり、硬化後は水酸化カルシウムの徐放体となり、パーフォレーションの処置、逆根管充填剤、直接覆髄剤、内部吸収への充填、アペキシフィケーションの根管充填剤として使用されるが、日本では直覆材としてのみ認可されている。難治性の根尖部破壊症例に効果が期待できるが、物性的に操作が難しくまた、いったん充填されたMTAは除去が非常に困難なためケースの選択に注意を要すると述べられた。

講演後の質疑応答では、非常に沢山の質問が寄せられ、聴講者の真剣さが慮られた。

井上理事の謝辞により興味深い講演は終了、まさに明日からの臨床に役立つ内容であった。

（学術　馬場　一英）

お知らせ

マイナンバー制度説明会

日　時　　【第１回】平成27年10月24日（土）午後４時～５時30分
　　【第２回】平成27年11月７日（土）午後４時～５時30分
場　所　　熊本県歯科医師会館　４階ホール
講　師　　ユース社会保険労務士法人　代表社員　田畑 和佳子
対　象　　会員及び実務担当者

糖尿病・歯周病医療連携研修会

日　時　　平成27年10月31日（土）午後３時～６時
場　所　　熊本県歯科医師会館　３階研修室
講　師　　熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター
　　古川 昇　准教授
　　熊本県歯科医師会　井上 裕邦　理事、赤尾 浩彦　理事、
　　小田 哲也　委員、椿　誠　理事

委員会報告

子供たちの「歯・口の健康つくり」を推進

― 学校歯科医研修会 ―

学校歯科

8月29日（土）午後3時より県歯会館4階にて、学校歯科医研修会が開催された。雨の土曜日ではあったが、県内の学校歯科に熱心な会員が集まり、学校歯科医の在り方や活動についての研修会が行われた。研修はテキストに沿って4つの到達目標に分けて行われた。最初に大林理事より「学校歯科保健概論」についての講習があり、幼稚園や学校における歯科保健教育の目的と理念や役割についての説明があった。我々学校歯科医は子供たちの「生きる力」を育成するために「歯・口の健康つくり」を健康教育の題材とし、教育者としても積極的に参加しなければいけない事を講義された。次に日本学校歯科医会杉原瑛治常務理事より「保健教育」について、子供の発育段階や学校行事、校内活動に即した学校歯科保健教育の内容を講義された。幼稚園から小・中学校、高校での成長発育に応じた歯科保健教育の目的と指導内容。それを行うための学校への関わり方についての説明があった。

学校歯科医の在り方や活動を学ぶ

4人の講師がスライドを使用して説明される

河原委員長の「保健管理」についての講義では、我々歯科医師が行う学校健診の意義や、診断内容の理解、結果の分析や評価など、学校歯科医として関わりの大きい内容を説明された。健診についてはCO GOの意味についての理解や適切な指導について、学校歯科医が知っておかなければならない事が多かった。最後に勇委員の「組織活動」について説明があり、学校歯科医と学校の連携や協力、地域活動への関わり方、教職員PTA、学校医、学校薬剤師そして児童との協力関係について熱心に説明された。学校歯科医として健診事業に協力するだけでなく、学校行事に参加し関わりを持つことで、学校教育の中で外部講師（GT）として健康教育を行ったり、情報の収集や発信を行ったりすることの重要性が理解できた。最後に宮﨑委員の閉会の辞により研修会は終了となった。

（学校歯科　宮﨑 修一）

航跡　～熊本県歯科医師会の歩み　その７（昭和期３）～

第２章　歯科医療界の変遷
第５節　戦後の歯科界（昭和21年～30年）
⑴　日本歯科医師会では

大戦での敗戦は日本にとって開国・明治維新につぐ大きな節目となった。そして敗戦後はアメリカの絶対的な影響を受けることとなる。昭和20年に進駐してきた米軍は占領下の日本に対し、連合軍総司令部（ＧＨＱ／ＳＣＡＰ）の指示によって日本政府が統治するという間接統治の方式をとったので、体制の変化は崩壊的なものではなく、急激ではあったが移行という形をとることができた。

敗戦時、医師会、歯科医師会は強制設立、強制加入の国政翼賛機関であったが、すぐにＧＨＱの改革の対称になり昭和21年の２月には医師会令、歯科医師会令の改正が行われ、翌年には任意設立、任意参加の「社団法人日本歯科医師会」として生まれ変わった。初代会長には日本大学歯学部生みの親、佐藤運雄が就任した。この際ＧＨＱより、戦時下の旧歯科医師会役員については、新歯科医師会の役員の被選挙権剥奪の通知があり、日歯役員、都道府県歯会役員、都道府県歯会支部長の役員、代議員の再就任は出来ないとされた。

戦前より続いていた会員への「日歯回覧板」も途絶え、昭和23年最終号がくず紙をすきかえして作った粗悪な用紙54頁で発行された。同年、ＧＨＱの特別配給で用紙が確保され「日本歯科医師会会報」が発行された。また、学術内容を望む会員も多く、購読申し込みを受けた上での有料配布という形で、同年「日本歯科医師会雑誌」が誕生している。

昭和26年には、日本歯科医師政治連盟が設立され、28年４月参議院全国区に初の歯科界代表となる林了を当選させた。林は歯科医師法改正に取り組み、歯科医師の死亡診断書交付権を復活させ、「むし歯予防法」立法化にも奔走したが、成立を待つことなく同年12月、45歳の若さで急逝した。

【歯科保健医療行政】

歯科医師法の公布された昭和23年には、厚生省に歯科衛生課が設置された。それまでにも厚生省には歯科医師が入省していたが、歯科保健医療行政は医科全体の一部として扱われ、独立した部局はなかった。しかし昭和31年の行政改革で基盤の弱さを理由に看護課とともに廃止になり、歯科衛生業務は参事官制度で処理されるようになった。昭和32年に初めて実施された「歯科疾患実態調査」もこの歯科参事官制度のもとで行われた。その後歯科衛生課が再びおかれたのは７年後の昭和38年であり、社会保険医療行政に携わる歯科医療管理官がおかれたのは昭和46年になってからであった。何とも…

歯科保健推進のための関係法令を整備したいという要望は歯科界では戦前から行われていた。日歯内部に医制調査部がおかれ、昭和３年には「六歳臼歯保護法制定についての答申」が出されている。また、昭和28年には参議院議員の林了が「むし歯予防法」の設立を目指して参議院法制局に依頼し「むし歯予防法案要項」を作成していたが、林が急逝したために日の目をみることはなかった。どうして林先生の遺志を継げなかったのだろうか、残念でならない。

昭和35年に、社会の変化に応じた医療制度検討のため「医療制度調査会」が設置され、昭和38年には「医療制度全般についての改善の基本方針に関する答申」がまとめられた。この調査会には日歯会からも２人の委員が参加しており、日歯会も昭和37年に16項目に渡る「歯科医療制度改革についての試案・中間報告」をまとめている。しかし昭和47年の「医療基本法案」には盛り込まれず、日の目を見ないで終わっている。また、昭和44年には日歯会は特別委員会を設け「齲歯対策推進の立法化に関する答申」をまとめている。

医療制度調査会に平行して厚生大臣は昭和46年、歯科保健問題懇談会を設けて検討を委嘱、昭和49年12項目についての答申を行った。

さらに、昭和51年には「歯科保健問題懇談会報告書解説」を作成し具体的補足を行った。その後、平成10年頃より日本歯科医師会は歯科保健法の成立を目指したが二度の廃案となる。しかし遂に平成23年８月、「歯科口腔保健の推進に関する法律」（歯科口腔保健法）が成立し８月10日に公布・施行されている。80年に及ぶ歯科医師会の活動の成果とも言えるが、いかにも遅すぎた感は否めない。その前後各都道府県における歯科保健推進条例の制定（熊本県では、熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例）へと繋がっている。

このように国の歯科保健医療に対する取り扱いは戦後になっても手薄であったことは事実である。そんな中、先輩たちの法律制定へ向けた絶え間ない努力には頭が下がる思いである。歯科口腔保健法は理念法で予算を伴うものではないが、歯科口腔保健の推進に係わる基本理念を定めるとともに、国および地方公共団体、歯科医師、国民等の責務を明らかにしている。

今後、国の歯科保健医療に対する取り扱いが向上することは歴史を見ても考えにくい。日本歯科医師会、都道府県歯科医師会は歯科口腔保健法、歯科保健推進条例を錦の御旗に具体的な事業・活動を展開してく必要がある。より所となる法整備ができたことの意義は大きい。

【歯学教育】

昭和21年４月、日本の将来の歯科医学教育のあり方を検討すべく、ＧＨＱの指導の下に歯科教育審議会が設立された。委員長は奥村鶴吉（後の東京歯科大学学長）、ＧＨＱの担当はD．B．リジレー中佐で、中佐は奥村がペンシルベニア大学の卒業生であることを知って敬意を払い、逆にアドバイスを求めたと言う。メンバーは歯科医学校校長が８名、教授が６名、歯科医師会会長、役員が３名、開業歯科医が５名、政府代表が３名、ＧＨＱ代表が１名の合計27名であった。（政府、ＧＨＱはオブザーバーとして参加する民間ベースの会議であった）その指針として、「今後の歯科医学教育は大学において実施すべきである」という方針が打ち出された。国民の口腔衛生に対する関心を高め、歯科医療を改善し適切に提供するには、治療技術の向上はもとより、高い教養を持ち責任ある立場の歯科医師を養成することが求められた。それまで無試験で医師・歯科医師の免許を得られた大学や専門学校卒業生も昭和21年より国家試験合格が免許要件となった。さらに医師の場合は、卒業後１年以上の実施修練（インターン制度）を経なければ国家試験の受験資格を得られないとされた。歯科については在学中に必要な修練を成し得るので「インターンシップ」は必要ないとされた。医学教育では患者を実際に診る機会がないのに対し、歯科医学教育では学生が診療実習を行っていたことからこのような違いとなった。昭和22年４月には、第１回歯科医師国家試験が実施（春・秋２回）された。また、審議会では、Oral Hygienistに準じる歯科衛生婦を養成することが必要であるとされた。

昭和21年７月には東京歯科大学が予科３年、学部４年で誕生、同年東京医科歯科大学も承認され、昭和22年には、日本歯科大学、日本大学歯学部、大阪歯科大学も旧制大学として承認された。その後、昭和24年に九州歯科大学、東京医科歯科大学、昭和26年に大阪大学歯学部、昭和27年に日本大学歯学部、大阪歯科大学、東京歯科大学、日本歯科大学の７校が現行の新制大学として誕生している。

昭和23年には医師法、歯科医師法、歯科衛生士法、保健婦助産婦看護婦法が創設された。制度化された歯科衛生士は予防処置を行うことを業務とし、保健所に勤務し歯科公衆衛生の現場を担当する者とされた。昭和24年東京歯科大学歯科衛生学科が日本最初の歯科衛生士養成機関として発足した。歯科衛生士の業務は、昭和30年に歯科診療の補助が、平成元年に歯科保健指導が加えられた。昭和30年には歯科技工士法が制定され、歯科医師と歯科技工士の連携が整備され、平成６年改正され歯科技工士法となっている。

⑵　**熊本県歯科医師会では**

【新生歯科医師会】

昭和20年敗戦時の県歯科界は想像を絶する悲惨な状況にあった。家を失い、家族を失い、衣食すらない悲惨な会員もいた、永年外地にて辛苦築き上げた財を捨て裸一貫となって引き揚げてきた会員もいて、罹災会員の立ち直りは困難を極めた。

昭和21年３月、戦後第１回目の総会が日奈久町で開かれた。熊本市は大半が戦火により焼け野原となり、総会を開く会場がなかったためである。会員数は、288名（新入会者14名、退会２名、死亡４名）。歯科医師会の活動は、非罹災会員等に呼びかけ、医療器械、材料の譲り合いや、旧陸海軍所蔵の医療資材の放出を運動するなど、歯科医療復興への努力がなされた。罹災会員や引き揚げ歯科医師への救済活動としては、県下305ヶ村の内、約半数を占める無歯科医村を対象に１村６ヶ月を目安に無歯科医村診療を行うことになった。罹災会員の収入を無歯科医村での診療報酬で確保しようと言うものであり、資材購入のための資金が会員より一人50円を寄付する事になった。この支援は多くの罹災会員の立ち直りを可能にした感動的事業と言える。

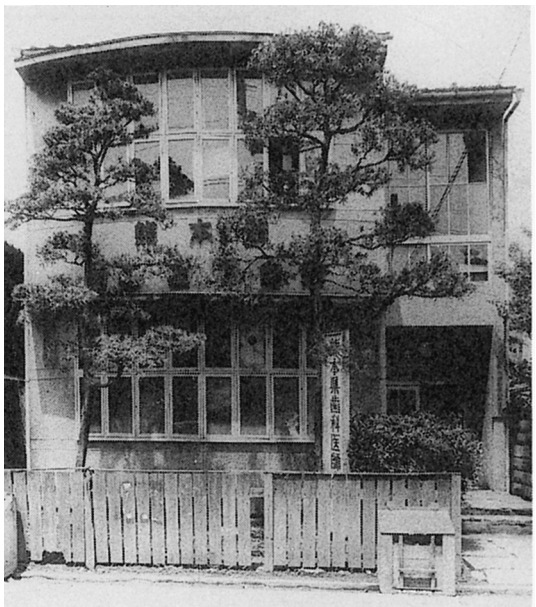
歯科医師会、医師会および日本医療団の解散の法律が公布され、昭和22年10月解散総会が日奈久町泉屋旅館で開かれた。同年11月には川尻公会堂で設立代議員会が開かれ、木村正新会長が誕生した。翌23年４月に第１回代議員会、総会が開催され、名実ともに新生歯科医師会として活動がスタートした。熊本県においても、ＧＨＱの民主化、新人登用の指示により、戦時下の旧役員・代議員は新生歯科医師会の役員・代議員には自発的に就任しないよう指導がなされた。

昭和26年ＧＨＱの指導により医薬分業法が公布され、昭和30年より実施されることになった。これに反対し、医師会、歯科医師会、町村有志の共催で昭和29年７月、熊本市公会堂で「強制医薬分業反対大会」を1,800名の参加で開催した。県知事、市長、熊大学長など来賓臨席のもと、西郷県医師会長、西山県歯会長などが意見を述べ、強力に反対運動を展開することを決定した。しかし実際には骨抜き法案で、その後医療機関が薬で利益を得る「薬漬け医療」が蔓延し医薬分業は進展しなかった。昭和49年、厚生省は薬科を改定し、薬で利益が出ない仕組みを作り、同時に院外処方箋発行に評価を高くし医薬分業を図った。その結果、調剤薬局が増加し医薬分業が進展してきた。医薬分業元年と言われている。

昭和29年４月には熊本県歯科医師会の機関紙として「熊歯会報」の第１号が発刊され、会員への報告、情報、また会員の発表の場として現在713号まで、その役目を果たしている。

【新生歯科医師会館　昭和26年～昭和39年】

昭和26年５月、会員待望の歯科医師会館が熊本市楠町（現在の中央街）に完成した。会員１人1,500円の負担金を集め、60万円の予算で建設された。それまでのように会長の自宅や借家を転々とすることなく、自前の会館で会務が行われることになり、県歯史の新しいページが始まった。しかし、６月には６・26大水害で１階は泥水に浸かってしまい、多くの会員による必死の復旧活動が行われた。また、歓楽街という場所柄、通行人の塀内や植え込みへの大小便には閉口したそうである。



新築の歯科医師会館
（第６代牧實会長後半～第７代西山勗会長時代）

【２・26大水害】

昭和26年６月25日、26日にかけて熊本地方を襲った集中豪雨は、記録的雨量となり、白川が氾濫、熊本市は京町、健軍町などの高台を除いてほぼ全市が２～３メートルの浸水となり、泥海と化した。死者498人、行方不明39人、重軽傷者1,500人余、被害者数38万人余、家屋の全壊・流出1,855戸、床上・床下浸水88,053戸にのぼり、被害総額は830億円を越える大災害となった。この時の水害は泥害と言われ市内は泥の街と化した。泥は泥でも阿蘇火山灰と言う厄介なシロもので、丁度「ねりアン」の様な泥の山、乾けば微細なホコリとなるヨナが泥んこの正体であった。５月に完成した歯科医師会館も非情にも浸水、泥に埋まってしまった。会員の被害者も多く、歯科医師会にも災害対策委員会が設置され、被災会員の救援活動を行っている。国会でも特別措置法が成立し、診療費の支払いや所得税減税の措置が取られた。また、全国各地より温かい温情や見舞い、義援金が届けられ、再建への大きな励みとなった。災害翌日早くも駐留米軍は救援の手を差し伸べ、全国の保安隊（後の自衛隊）もブルトーザー、トラック、ダンプカー等の新鋭機械化部隊を以て出動し市民感謝の的になった。

一夜明けた熊本市下通りの惨状、
新築の歯科医師会館もこの界隈にあった
正面のビルは大洋デパート

進駐軍（米第２海兵師団第８戦闘連隊）は昭和20年10月に熊本市八景水谷の熊本陸軍幼年学校に駐屯、沖縄戦で戦死した同部隊のウッド海兵隊員にささげキャンプ・ウッドと命名、昭和31年10月まで11年間熊本に駐留した。この間市民とも様々な交友関係が生まれ、28年の６・26大水害では復旧への活躍が目立った。返還後、陸上自衛隊第８混成団が駐屯、37年に第８師団に改編されている。

【口腔衛生強調運動】

昭和27年「口腔衛生週間」のネーミングが「口腔衛生強調運動」と改称され啓発・広報活動も拡大した。同年９月には「母と子のよい歯のコンクール」がスタートした。

昭和29年には、６月２日「歯磨訓練大会」４日～10日「口腔衛生普及週間行事」10日「母と子のよい歯のコンクール」に加え「歯の女王コンクール」が開催された。歯の女王はオープンカーに乗って、市内をパレードし沿道の市民からは喝采が上がったという。これは、昭和25年の口腔衛生週間にライオン歯磨会社が東京三越で開催し大好評だった「顔と美の健康展」をヒントに、県医務課の上垣良介技官の発案で「ミス・チース」が昭和26年初回開催され好評を博したのを受け、その２回目として29年「歯の女王コンクール」の開催となった。審査員には、美の感覚に鋭い芸術家、芸大教授、美容師などを加え、社会性と権威を持たせた。審査基準は①歯牙30点　②歯列10点　③咬合状態10点　④顎および顔面の発育と調和の美20点　⑤歯口清掃状態10点　⑥全身発育栄養状況既往症現症20点の100点とされた。ミス流行の折りであり、楽しい企画だったと想像できる。

明眸皓歯！選ばれた歯の女王たち

オープンカーで市内をパレードする歯の女王

【教訓】

敗戦直後（昭和20年代）、日本の歯科界は大きく変化していった。ＧＨＱの指導のもと歯科医師会の改組、歯学教育の改革、歯科保健医療制度の再編、社会保障制度の整備などが厳しい環境の中、行われていった。熊本県においては、戦災会員への支援はもとより、激しいインフレの中、歯科医院経営は厳しく、地方税や社会保険診療報酬においては不当な課税が行われ、その対応に苦慮していた。また、熊本市内では２・26大水害の発生により会員診療所、新築歯科医師会館も大きな被害を被った。そんな中私たちの先輩たちは、泣き言も言わず、立ち上がり一致団結して奮起した姿が伺える。

平時こそ地に足の着いた行動が望まれる。恵まれた環境にある現在の私たちは、組織として、個人としてその責務と使命をしっかりと果たしていく必要があるのではないか。

そして、先達の努力に対し、感謝の気持ちを忘れてはならない。

（専務理事　渡辺賢治）

引用・参考文献：日本歯科医師会史、熊本県歯科医師会史、歯科保健医療小史、スタンダード歯科医学史、他

母と子の良い歯のコンクール審査風景と表彰式（口腔衛生大会）

厳しい審査！

抱えきれないほどの賞品！

報 告

警察歯科医のための災害シミュレーション

― 第14回警察歯科医会全国大会 ―

8月29日（土）宮城県ホテルメトロポリタン仙台において、第14回警察歯科医会全国大会が開催され、本会より浦田会長、牛島、警察医会より上田忠副会長、矢毛石陸男理事が参加した。

今回の大会テーマは「警察歯科医のための災害シミュレーション～想定外の状況にどう向き合うのか～」と題して、全国から歯科医師会会員、大学、警察、行政の関係者約450名が集まった。主催者の宮城県歯科医師会細谷会長の挨拶に始まり、高木日歯会長、親家警察庁刑事局第一課室長、村井宮城県知事代理、中尾宮城県警察本部長、奥山仙台市長と祝辞が続き、全国大会が始まった。

プログラム内容は以下のとおりである。

特別講演

「災害対応における大学の役割」
東北大学大学院歯学研究科長・歯学部長
佐々木啓一

「シミュレーションで解明する津波災害メカニズム」
東北大学災害科学国際研究所　今村文彦

シンポジウム

「我々にとっての災害とはなにか？
～全国に問う災害想定とその対応～」

○東日本大震災の経験から考える南海トラフへの対応

「東日本大震災における身元確認を核とした災害警備体制の全体像」

女川潮騒太鼓轟会の迫力ある演奏

宮城県警察本部刑事部鑑識課長　後藤 利

「データで読み解く東日本大震災～災害をマクロな視点で理解するために～」
東北大学副学長 情報科学研究科教授
青木孝文

「南海トラフ大地震の対応シミュレーション」
高知県歯科医師会会長　織田英正

○その他の状況想定のための参考

「土砂災害の対応と今後予想される噴火災害」
広島県警察歯科医会専任理事　本山智得

「御嶽山における噴火さいがい」
長野県警察本部刑事部捜査第一課検視官
割田一志

「都市災害の想定と対応」
警視庁刑事部鑑識課課長代理統括検視官
山田伴高

死者9,538人、行方不明者1,240人をだした東日本大震災から４年半が経過し、その被害実態や経験から様々な研究がなされてきた。特に全国から応援に駆けつけた歯科医師による身元確認作業により、歯科所見から身元が判明した割合は全体の約10%で、DNAによるものは約１%であったということからも、大規模災害における歯科所見を利用した身元確認が重要な役割を果たすことは明らかで、今後も注力して災害対策に努めていく必要がある。又同時に、一方で津波によって歯科医院が被害をうけ、カルテ情報が流出し、照合作業に時間がかかったケースも散見され、今回のシンポジウムでも生前情報のデータベー

ス化の必要性も唱えられている。加えて東北大学の青木教授は、遺体収容のピークが発災後１週間がピークであるのに対し、歯科医師の出動のピークが２週目であったことから、初動体制の確立が重要であると述べられた。また、それら研究や経験を生かし、今後発生が危惧されている南海トラフ大地震への対策も喫緊の課題であり高知県では津波到達時間が数分以内で、平地に集中する歯科医院の５割が被災するとの予測がでており、今後さらなる対策を構築する必要があるということであった。

九州地区においても南海トラフ大地震発生の際には、宮崎県、鹿児島県、大分県などでも被害が予想され、熊本県からの災害派遣の必要性もでてくることもあり、会場にて、隣県歯科医師会の災害対策担当者と連携の構築について確認することもできた。

大会終了後には、同会場にて懇親会が行われ、震災で被害を受け、復興に励む女川潮騒太鼓轟会の迫力ある演奏が披露され、全国の警察歯科医関係者と深く懇親を深めることができた。雨降る東北では、涼しい秋の気配も感じられたが、大変熱気溢れる大会であった。

来年の警察歯科医会全国大会は平成28年９月に岐阜県歯科医師会主幹で開催される。

（常務理事　牛島　隆）

報　告

歯科保健活動を通して

― 第47回肥後っこスマイルサマーキャンプ ―

８月９日（日）午前10時～11時30分、熊本県糖尿病協会主催「肥後っこスマイルサマーキャンプ（８月８日～11日）」におけるキャンプメニューとして歯科健診、相談そして講演会を天草市天草町大江「ブルーアイランド天草」にて行った。

今年で47回を迎えるこのキャンプは、小児Ⅰ型糖尿患児とその家族に参加を募り、医療、保健、学校関係者が一緒にキャンプを行い、小児Ⅰ型糖尿病療養指導を行うことを主目的としている。

90分間歯科関係の時間を設けて頂き、５歳から高校生約20名を、歯科医師２名、スタッフ２名で健診、相談を担当した。その後、森口茂樹天草郡市会副会長の予防を中心とした歯科全般と食育について講演があり特に「食」の字が「人」と「良」から成る話は圧巻で会場全体が聴き入った素晴らしい講演であった。

相談に丁寧に説明

予防を中心とした歯科全般と食育について講演する

病と向き合っている子供達、それを支える保護者の方々にとって少しでも疾病改善の一助になればと願いながら、私達も勉強させて頂いた時間となった。

（天草郡市　小田 哲也）

報 告

「検視の必要性、重要性、困難性を学ぶ」

― 熊本県・阿蘇地域総合防災訓練 ―

8月30日（日）阿蘇市古坊中阿蘇スキー場跡地において、熊本県・阿蘇地域総合防災訓練が行われた。この訓練は『前日までの大雨により地盤が脆弱な状態の中、午前8時30分、阿蘇地域の各地で震度6弱～6強の地震が発生し、複数個所で土砂災害が発生。また、同時に、阿蘇中岳第1火口が突然大噴火を起こし、噴火警戒レベル3（入山規制）が発表された。』との設定であった。

訓練参加者は警察・消防・陸上自衛隊をはじめ約40機関の参加があり、古坊中の阿蘇スキー場跡地をメイン会場に地域振興局、各市町村役場などの会場で約400名の参加者で行われた。

総合防災訓練のプログラムとして、検視班による検視活動、歯牙所見による個人識別訓練が行われ、熊本県警察医会、熊本大学大学院法医学分野、熊本県歯科医師会、熊本県警察歯科医会、熊本県警本部刑事部捜査第一課検視係、大津、小国、阿蘇、高森警察署が参加した。警察医会の川口陸奥男会長と渡辺県歯専務理事の挨拶のあと、被害発生後、ご遺体が搬送されてきたという想定で、実際の歯牙標本を用いた個人識別訓練を行っていった。歯科医師会から参加した会員は4班に分けられ、2名のペアとなって標本を確認しながら、正確かつ迅速にデンタルチャートへ記入していき、警察医会の先生方より丁寧にアドバイスして頂いた。また、検視の中では、西谷熊本大学大学院法医学分野教授から、実際の現場では死後硬直のため開口器を必要とする場合や、損傷・汚染が激しいことで、汚染物の除去から始めなくてはならないこと、その他困難を極める事例が多々あることなど大変貴重な体験談をお聞きした。また、性別、年齢の判定はあくまでも推定であり、根拠をできるだけ詳細に書き添えることが必要であることなどご教授頂いた。終わりに米満准教授は、毎回、同じ標本を用いた個人識別用の死後歯牙所見記録作成訓練を行っているのでその結果を分析し所見記録の正確さ、合致の割合等を評価して検視の正確性を高め、統一化を進めていきたいと今後の展望を語られた。

歯科標本を確認しながらデンタルチャートへ記入する

熊本県では歯科医師会が参加した防災訓練は東日本大震災以前より行われており、歯科の役割の重要性について、本県では認識度が高いことがうかがえる。

今回、初めての総合防災訓練参加であったが検視の必要性、重要性、困難性等を学ぶことができた。阿蘇山上の吹きさらしのテントで真剣に訓練に参加して頂いた先生方には、心よりお礼を申し上げたい。

そして、本会からも東日本大震災の折、身元確認作業に参加された伊藤学院長をはじめ諸先生方に改めて敬意を表したいと思う。

歯科医師会会員訓練参加者

（敬称略・順不同）

渡辺賢治・神戸威・片山公則・伊藤明彦・田上大輔・宮川俊弥・ 武藤健史・田代正博・児玉睦雄・ 乗谷真・園田隆弘・宇治信博・安光千昭

（阿蘇郡市　安光 千昭）

郡市会報告

荒尾市歯科医師会

真夏の海に歓声が上がる！

―第19回　親睦釣り大会―

８月９日（日）の長潮、雲ひとつない無風快晴の有明海で恒例の「親睦釣り大会」が開催された。

例年は７月の中旬に行ってきた同大会だが、毎回乗船していた釣り船の「共栄丸」がエンジントラブルでドック入りした関係で、今年はひと月遅れで８月の釣り大会となった。

今回は荒歯会会員と荒尾市薬剤師会から２名、さらに遠路熊本市から親子での参加を含めて、総勢10名からなる太公望達が午前８時に玉名漁港から勇躍出港した。

狙う魚は、“小さな大物”のシロギス！船はベタ凪の海上を走り、ポイントに到着するや、シカケを投入すると、さっそくの魚信が連発した。

ブルッブルッとしたキス独得の引きは、明瞭で鮮烈そのもの。小気味よく竿先を震わせる。

例年よりも時季が遅く、シーズン終盤とあって小ぶりなキスが多かったものの数が出た上に、グチ、トラギス、ホウボウ、といった多彩な外道もゲストとして釣り上げられ、船上は会員の親子の歓声が沸き上がった。

16名が参加して行われた

日も高くなった午後１時頃に納竿し、帰港沖上がりした。

結果

“キスの部”は23.5㎝の良型をゲットした古屋敷努会員が優勝。

“他魚の部”は熊本市から駆けつけた梶原武彦・貴史（小学５年生）親子が27㎝のグチを釣り上げ、初の栄冠に輝いた。

参加者達は来年への連覇と雪辱をそれぞれ誓い合い、海上での熱きバトルを締めくくった。

（原口　泰）

球磨郡歯科医師会

「超高齢社会に対応する舌診と漢方の応用」

―学術講演会―

８月８日（土）午後３時より九州歯科大学副学長・付属病院長の柿木保明教授をお迎えして、球磨郡歯科医師会主催にて、学術講演会を錦町パルティール福寿庵で開催した。

人吉市歯科医師会及び人吉球磨の衛生士会にも声をかけ、人吉球磨地域の歯科関係者が参加した。

【超高齢社会の歯科臨床における舌診と漢方の応用、そして義歯調整】と題して、柿木教授に、専門分野である舌診断に関してや、口腔ケアや介護ケアの一環としての義歯の調整方法、歯科分野での漢方薬の使用法など多種にわたり講演いただいた。

会場の収容人数の関係で参加者は70名ほどに限定されたが、参加者の常日頃の診療に直結した大変有意義な講演であった。

診療に直結した大変有意義な講演であった

また、その後の懇親会において先程の講演とはまた少し異なった他分野についての興味深いお話も伺えた。

（山村 礼二）

ご　訃　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

石田　龍佑 先生
平成27年９月13日　ご逝去　87歳

- 郡　市　名：山鹿市
- 入会年月日：昭和27年４月25日

会　務　報　告

自　平成27年７月17日
至　平成27年８月23日

所管	日付	摘要	出席
総　務	７月17日	九州各県事務局長連絡会（沖縄県口腔保健医療センター）	澤田事務局長
	18日	第１回臨時代議員会 〔議事〕第１号～第２号議案 〔協議〕（１）時局対策	宮本議長、玉置副議長他全議員、浦田会長他田中理事を除く全役員、伊藤学院長
	22日	第３回理事会 【承認事項】（１）新入会員の承認（２）関係機関・団体からの役員等の推薦依頼 （３）名義後援使用依頼　ほか 【議　　題】（１）平成27年度「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」の助成金交付申請 （２）第21回中規模県歯科医師連合会への協議事項 （３）平成27年度熊本県補助及び委託事業に係る予算案　ほか	浦田会長他全役員、伊藤学院長
	23日	熊本サントリー会（熊本ホテルキャッスル）	浦田会長
	25日	神奈川歯科大学同窓会熊本県支部総会懇親会（熊本市）	浦田会長
	26日	月次監査 ６月末会計現況監査	久々山・西野監事
	27日	支払基金審査委員懇談会（熊本ホテルキャッスル）	浦田会長
	29日	阿蘇医療センター甲斐病院長・地域医療介護総合基金事業提案説明（宇土市）	浦田会長
		九州地方社会保険医療協議会熊本部会（KKRホテル熊本）	中嶋副会長
		第１回県医療審議会（県庁）	浦田会長
	30日	県体育協会第１回財務特別委員会（ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ）	澤田事務局長
		支払基金本部役員挨拶のため来館	浦田会長
	31日	熊本地裁・簡易裁判所調停委員第１回自主研修会（熊本地方裁判所）	前野会員
		会計打合せ	渡辺専務理事、八木常務理事
	８月１日	九地連監事会（鹿児島城山観光ホテル）	浦田会長
		九州各県会長会議（鹿児島城山観光ホテル）	浦田会長
		九地連協議会（鹿児島城山観光ホテル）	浦田会長、中嶋副会長、渡辺専務理事、八木常務理事、澤田事務局長
		九地連総会（鹿児島城山観光ホテル）	浦田会長、中嶋副会長、渡辺専務理事、八木常務理事、澤田事務局長
		愛知学院大学歯学部県支部総会・暑気払い（熊本市）	田上常務理事、竹下理事
	３日	故澤田宣彦会員（八代）告別式弔辞奉呈（八代市）	浦田会長

所管	日付	摘要	出席
総　務	4日	第1回選挙管理委員会 （1）委員長・副委員長の互選	杉尾委員長他全委員、浦田会長、小島副会長、渡辺専務理事、八木常務理事
	5日	第2回常務理事会 （1）新入会員の承認（2）熊本県警察歯科医会会則の一部改正（案） （3）選挙管理委員会規則と諸会議及び委員会規程の一部改正（案）　ほか	浦田会長他牛嶋常務理事を除く全役員
	7日	第1回裁定審議委員会 （1）正副委員長選任（2）委嘱状伝達（3）裁定審議委員会委員の任務	元島委員長他全委員、浦田会長、小島副会長､渡辺専務理事､牛島常務理事
	8日	県下歯科大学（歯学部）同窓会支部連絡協議会（ホテル日航熊本）	浦田会長、小島副会長、渡辺専務理事
	12日	第766回支払基金幹事会（支払基金）	浦田会長
	13日	会計打合せ	八木常務理事
	14日	在宅歯科診療器材整備事案説明会打合せ	宮坂副会長
		県委託事業に係る関係各課への挨拶回り（県庁）	宮坂副会長、松本理事
	16日	熊本歯科衛生士専門学院同窓会定例総会懇親会（熊本ホテルキャッスル）	宮坂副会長
		故大森正哉会員（下益城郡）告別式弔辞奉呈（宇城市松橋町）	浦田会長
	18日	県教育庁との懇談会（熊本市）	浦田会長、小島・宮坂副会長、伊藤学院長、渡辺専務理事、田上・八木・牛島常務理事、大林・宇治理事、澤田事務局長
	19日	第3回常務理事会 （1）一般社団法人熊本県歯科医師会口腔保健センター備品貸出要綱別記記載の追加 （2）代診派遣依頼者との取り決め事項 （3）第21回中規模県歯科医師会連合会協議題の回答　ほか	浦田会長他常務理事以上全役員
	20日	在宅歯科診療器材整備事業説明会 参加者：31名	宮坂副会長、渡辺専務理事、松本・宇治理事
学　術	8月5日	第1回日歯学術委員会（日歯会館）	牛島常務理事
	8日	平成27年度日歯生涯研修セミナー（宮崎会場）事前打合せ会（宮崎県歯会館）	牛島常務理事
	9日	平成27年度日歯生涯研修セミナー（宮崎会場）（宮崎県歯会館）	牛島常務理事
	23日	デンツプライ三金㈱共催学術講演会 受講者：97名 講師：泉　利雄　准教授（福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野）	牛島常務理事、井上理事、堀川委員長他全委員
		学術委員会 （1）九州各県学術担当者会提出協議題回答作成	井上理事、堀川委員長他全委員
社会保険	7月25日	社会保険委員会 （1）指導立ち合い、個別相談会日程（2）各郡市社保担当者会議 （3）九州各県社保担当者会議	中嶋副会長、田中・椿理事、清水委員長他12委員
		各郡市社会保険担当者会議 （1）各郡市との連携及び個別指導対策（2）厚生労働省への質問事項	中嶋副会長、田中・椿理事、清水委員長他全委員
	8月5日	レセプトチェックセンター（荒尾市） 相談者：1名	田中理事
	12日	保険個別指導（KKRホテル熊本）	橋本・野田副委員長、渡辺委員
	19日	第1回日歯社会保険委員会（日歯会館）	椿理事
地域保健	7月28日	熊本さわやか大学校八代校講演（やつしろハーモニーホール）	松下八代歯会理事
	29日	地域保健小委員会 （1）早産予防対策事業に係る啓発用DVDの作成	田上常務理事、大林・赤尾理事他2委員
	8月2日	県衛生士チーフ育成ステップアップ研修会	田上常務理事
	5日	地域保健委員会 （1）平成27年度各郡市地域保健担当者会（2）後期高齢者歯科健診事業 （3）笑顔ヘルＣキャンペーン	田上常務理事、赤尾理事他全委員
	6日	山鹿市学校保健会研修会（鹿本医師会館）	田上常務理事
	19日	地域保健小委員会 （1）早産予防対策事業に係る啓発用DVDの作成	田上常務理事、赤尾理事他2委員
	20日	青山製作所熊本工場事業所健診（高森町） 健診者数：9名	三森会員
広　報	7月18日	第1回臨時代議員会取材	岩崎委員長、永廣副委員長
	21日	広報委員会 （1）会報8月号校正（2）会報9月号作成日程	竹下理事、岩崎委員長他4委員
	8月11日	広報小委員会 （1）会報9月号編集・校正	竹下理事、岩崎委員長他3委員
	18日	広報小委員会 （1）会報9月号校正（2）会報10月号作成日程	竹下理事、岩崎委員長他2委員

所管	日付	摘要	出席
学校歯科	7月22日	県学校保健功労表彰並びに学校保健及び学校安全表彰審査会、県学校保健会表彰審査会	宮坂副会長
	8月6日	むし歯予防全国大会熊本開催打合せ （1）むし歯予防全国大会開催までの流れ（2）事務的作業の内容（3）過去の事例	浦田理事長、渡辺専務理事、大林理事、澤田事務局長
	8日	九州地区学校歯科医会役員連絡協議会（宮崎県歯会館）	八木常務理事、田畑副委員長
	19日	むし歯予防対策事業打合せ （1）フッ化物洗口の実施状況（2）フッ化物洗口Q＆Aの周知 （3）フッ化物洗口マニュアル　ほか	大林理事、河原委員長他4名
	20日	県PTA共済審査委員会（県総合福祉センター）	西野監事
	23日	県学校保健研究協議大会（小川総合文化センターラポート）	浦田会長、大林理事、河原委員長、勇委員
医療対策	8月4日	医療相談 紛争事案協議	冨屋理事
	21日	医療対策委員会 （1）事例報告検討（2）九州各県医療安全担当者会（3）委員提出協議題　ほか	冨屋理事、岡田委員長他7委員
センター・介護	7月22日	県地域リハビリテーション支援センター運営委員会	松本理事
	8月6日	センター・介護小委員会 （1）各郡市担当者会議（2）委託事業	松本理事、平井委員長他2委員
	22日	在宅及び要介護者歯科に関する委託事業各郡市担当者会議 （1）在宅歯科医療推進事業（2）介護者歯科実技研修事業（3）他委託事業	浦田会長、小島副会長、田上常務理事、松本理事、平井委員長他2委員
厚生・医療管理	7月25日	天草郡市健康診断（天草地域医療センター）	
		荒尾市健康診断（荒尾市医師会館）	
	27日	第1回県後発医薬品安心使用・啓発協議会（熊本テルサ）	八木常務理事
	8月8日	天草郡市健康診断（天草地域医療センター）	
		宇土郡市健康診断（宇土市保健センター）	
	12日	厚生・医療管理小委員会 （1）シニア倶楽部（2）医療管理だより（3）九州各県担当社会　ほか	牛島常務理事、宮井理事、工藤委員長他1委員
	20日	山鹿市健康診断（鹿本郡市医師会館）	
	22日	阿蘇郡市健康診断（阿蘇郡市医師会館）	
総務・医療連携	7月23日	病診連携打ち合わせ	牛島常務理事
	8月4日	病診連携事業歯科衛生士協議会	牛島常務理事、宇治理事
	5日	県医療・保健・福祉連携学会第1回企画委員会（県医師会館）	小島副会長
	20日	第1回県がん診療連携協議会（熊大医学部附属病院）	浦田会長
学　院	7月25日	第1回学院体験入学 参加者：51名	西口・野中専任教員
	8月9日	第2回学院体験入学 参加者：47名	小原教務副主任他職員1名
	23日	第3回学院体験入学 参加者：46名	岩切教務主任他職員1名
国保組合	7月21日	県国保連合会通常総会（KKRホテル熊本）	田尻課長補佐
	25日	第2回国保臨時組合会	議員29名、浦田理事長他全役員
	8月6日	第3回医療保険者などにおける番号制度導入に関する説明会 （福岡市・パピヨン24ガスホール）	田尻課長補佐
事業課	7月21日	ケイ・デー・エム・ユー相続対策セミナー打合せ	牛島常務理事

会員専用グループ保険のご案内

随時加入募集中!!

グループ保険　Ⅰ 団体定期保険　Ⅱ 新医療保障保険団体型

Ⅰ 団体定期保険

充実した保障内容
合理的な 死亡保障 の確保に！

最高3000万円の保障（無診査）が70才まで新設されました

保険金額の増減は毎年自由に変更できます

① 割安な保険料で高額保障
災害に起因する死亡の場合は、災害保険金が上乗せされます

② 最高75歳まで継続更新可能

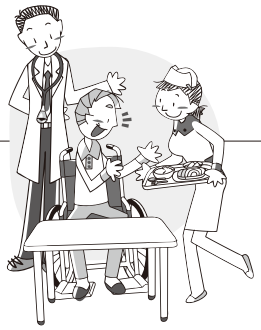
③ 障害給付金・高度障害保険金も準備されます

35年以上の長期にわたり、熊本県歯科医師会で会員のために継続している福利厚生制度です。

随時加入できます

Ⅱ 新医療保障保険団体型

ニーズの高い病気入院の保障が
低価格で プラスできます！



① 疾病・傷害、いずれも保障の対象！

② 入院給付金は１日目からお支払します

③ 1入院60日限度　通算1,000日分まで保障

本人プランは入院1日15,000円まで保障

④ 最高89歳まで継続更新可能

⑤ 配偶者・お子様もご加入可能

この保険は当グループ内で１年ごとに収支計算を行ない **剰余金が生じたときは配当金として加入者全員に還元**しています。

お問い合わせ

熊本県歯科医師会 事務局　担当：奥村　TEL096-343-8020

口腔ケア　プロ専用歯ブラシ

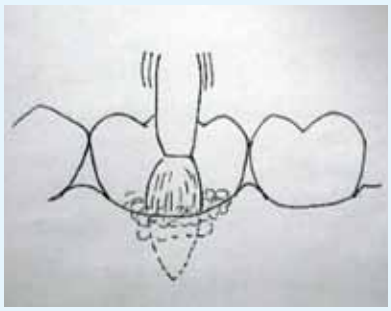
電動歯ブラシの新種です。

毛先を使いません。だから腫れてても痛くない。

市販の電動（音波振動）歯ブラシに装着して使います。

今回はドルツ（パナソニック）又はプリニア（GC）です。

振動中



泡を発生

ダミーの下を清掃中

そして、歯面についている歯周ポケットのプラークを撹拌します。
この振動でバイオフィルムを破壊し、嫌気性菌と空気をブレンドします。

あわれ嫌気性菌の運命は・・・・・
この続きは、各歯科医院で　お楽しみください。

		定価	日歯会員	日歯会員外
ホップブラシ　ボディ	1本	1,080円	756円	1,080円
	3本	2,916円	1,944円	2,916円
P－1	20個	2,400円	2,000円	2,400円
	50個	6,480円	5,400円	6,480円

バーゲン中　この価格はH27年12月末までです。

ホップブラシ　P－1

株式会社　KAI（かい）
〒861-5253　熊本市南区八分字町 3117-1
TEL　096-227-6231　　Fax　096-227-2398

ホームページ検索　ホップブラシで検索

made in japan

販売元　㈱KAI　製造元　㈱新進化学、㈱Soliton Corporation

笑顔ヘルC 8020 歯からはじめる。

11 主な行事予定 November

1日(日)	日歯生涯研修DVDセミナー及び会員発表
4日(水)	第8回常務理事会
8日(日)	笑顔ヘルCキャンペーン中央イベント
14日(土)	第2回「在宅歯科診療における他職種との連携」研修会
14日(土)	第68回九州歯科医学大会（沖縄）
17日(火)	第9回常務理事会
22日(火)	熊歯衛祭（学院文化祭）
25日(水)	第7回理事会

熊本県ご当地よ坊さん

熊本県歯科医師会
安心・安全歯科医療推進制度

編集後記

夏あたりから、会う人会う人から必ず「お腹が出てきたねー。」と挨拶代わりに言われ、果ては中年男性の私に対し「今、何ヶ月？いつ生まれるの？」と変なセクハラを仕掛けてくる女性がいたり、私はついに怒り心頭となってきました。大学の二つ先輩でもある委員会のT理事は、昨年頃から走ることに喜びと希望と健康を求めておられるようです。まったくランニングウェアなど似合いそうにない中年の恰幅の良い先輩だったのに…。その先輩の努力も報われて、今ではお腹の出具合は私といい勝負です。体は中肉中背で普通なのに、唯一お腹だけが何故か出ている私…。某CMの○○ザップは変な噂があるしお金がかかりそうだし、涼しくなったらウォーキングから始めて、数キロメートルは走れるようになりたいな。先輩が出来たのだから、私に出来ないことはない。などと、一人で妄想しながら冷たいビールを何杯も飲んでいる優柔不断な不良中年の私です。最近「やめる」習慣という本を読んで、日常何気なく習慣化しているこれからの人生にとって「悪いこと」をひとつずつやめ始めてはいますが（笑）。変わることは難しい。でも自分が変わらなければ、現状を変えられないんですよね。 （A.K）

■発行日／2015年10月5日発行 ■発行人／浦田 健二
■発行所／一般社団法人 熊本県歯科医師会
〒860-0863 熊本市中央区坪井2丁目4番15号
TEL／096-343-8020 FAX／096-343-0623
URL／http://www.kuma8020.com
■印刷所／コロニー印刷